

保険募集に関する一断面：徴兵保険会社の代理店会

吉村昭の『三陸沿岸大津波』をあらためて読んだ。文庫本の奥付をみると2011年4月に再版されたものだ。東日本大震災による大津波の被害が3月11日なので、その直後である。三陸海岸は、明治以降2011年の大津波以前に3回の大津波に襲われている。吉村は明治および昭和の大津波の被害を客観的に記述するとともに、大津波体験者へのヒアリングや自ら発掘した大津波を体験した小学生の感想文を織り交ぜて、大津波の被害の経験が三陸沿岸の人々の生活の中に定着している様を描き出した。そのおかげでチリの大地震による大津波に対してほぼ万全の対応が出来たことを誇らしく記述した。さらに三つの大津波を経験した古老の話から、「もう津波で死ぬ人は多くないだろう」という言葉を引用している。

吉村は、来るべき大津波を侮っていたわけではない。過去の大津波の記憶が、来るべき災害を最小のものと抑えるだろうということに希望をいただいていたのである。吉村は、大津波の脅威にさらされ、自然に対する畏怖をいだきながらも、自然と一緒に生活せざるを得ない三陸沿岸の人々の営為に対して深く感動している。過去の大津波の事実を記録したのは、その記憶が風化しないためにおこなった吉村の精一杯の営為だった。

しかるに、2011年3月11日に大津波は過去の記憶を木っ端微塵に打ち砕いてしまった。吉村が存命で大津波を知ったら、その悲しみと悔悟はいかばかりだったか。吉村は、幸か不幸か、大津波の5年前の2006年7月に亡くなっている。

明治および昭和の大津波の記録と比べると、被害後の救援状況は確実に良くなっている。昭和の大津波でも岩手県庁をはじめ迅速な救援活動が繰り広げられたが、迅速という点では改善されている。阪神淡路大震災の経験が生かされたのであろう。保険や共済の支払いも甚大な被害に対しては微力かもしれないが、被災地区の人々の当座の生活の安定のために役立ったのではなかろうか。さらに若者がボランティアに活躍し、批判されがちなSNSは伝統的な通信手段に勝るとも劣らない働きをした。被災地での暴動はなく、人心は比較的安定していたということも伝えられた。大津波の被害だけでなく、原発の問題などがあって、暗くなりがちな社会の中で一筋の救いであった。

吉村が生きていたら、東日本大震災の経験を記述することに尽くしたのではなかろうか。われわれは、予想を遥に上回ることに對して、たえず開かれている必要がある。そのためには、今般の災害を記述し歴史的な経験とする努力が大切だ。11月9日に慶應義塾大学で開催される、日本保険・年金リスク学会の研究大会で基調講演をおこなう名古屋大学の齊藤誠教授は、原発事故における膨大な資料を読破し、リスクマネジメントの観点から歴史的な記憶をすべきポイントを報告されると聞いている。一流の経済学者が吉村の営為につながる問題をどのように展開されるのか楽しみである。

吉村は、過去を記録する際に、写真史料を駆使して考えた。今回の連載から何回かに亘って保険会社関連の写真集を手がかりとして当時の保険の様子を明らかにしていきたい。今回紹介するのは、徴兵保険会社の1冊の写真集(29×19cm, 写真24頁+活字8頁)であ

保険毎日新聞「みちくさ保険物語」72

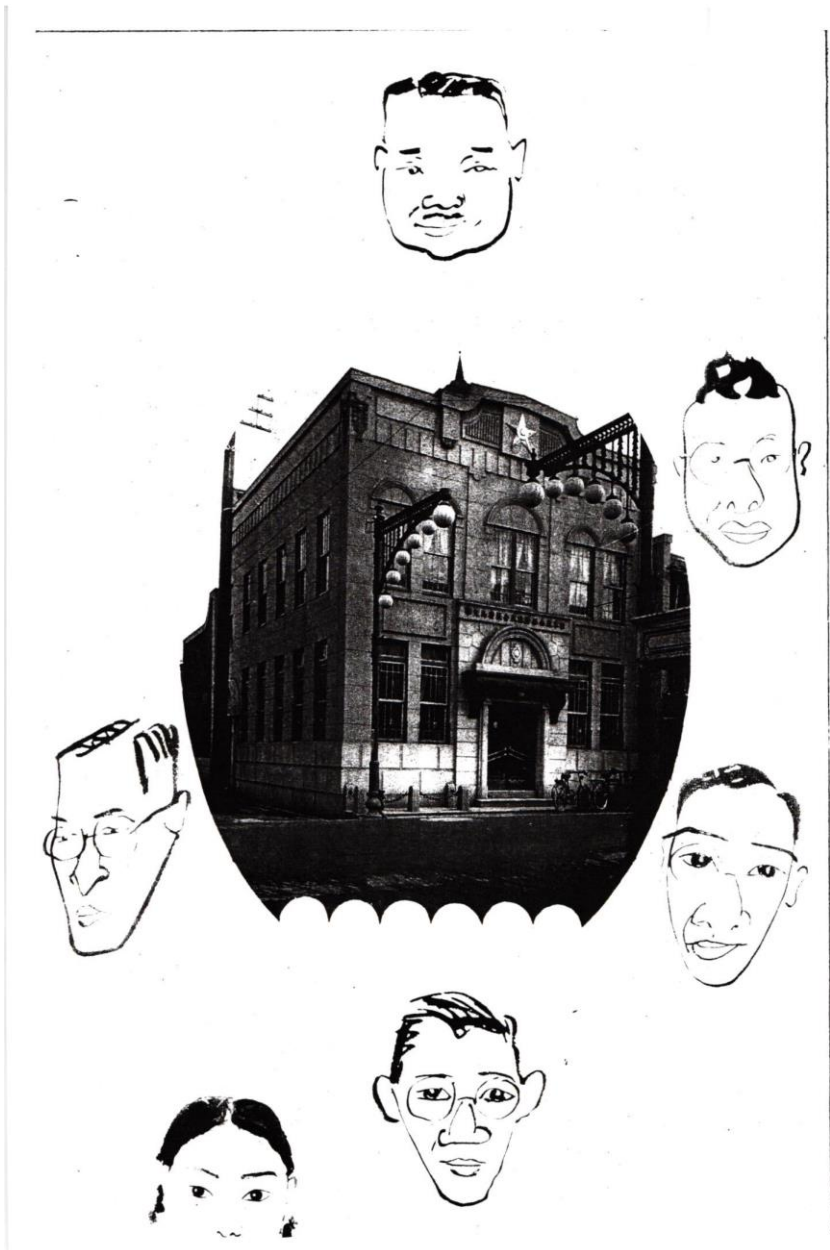
る。表紙には、『第八回代理店会、日本徴兵保険株式会社広島支部』とある。黒色の表紙に舞妓さんの銀色のエンボス画像があるものだが、綺麗にスキャンできないため、見開きの同社の広島支部の表紙の画像を掲載する。鮮明な画像でないのが残念であるが、同社の星型の社章が印象的である。この社章は、掲載した保険案内で確認できる。この保険案内は、子供用にカタカナで「保険に入ると徽章がもらえる」と書かれている。支部の建物はそれほど大きいものではないが、広島支部の管轄範囲には、隣県の山口県、岡山県をはじめ山陰と四国も含まれていたようだ。

この写真集は、優秀代理店の招待旅行を記念して発行されたものである。参加代理店主の写真が掲載され、つづいて招待旅行のスナップ写真が続く、そして最後に出席者芳名と編集後記などが記されている。旅行の行程は次のとおりである。


昭和7年(1932)11月12日午後4時までに広島支部に集合し、午後8時30分に広島駅を出発(二等車借り切り)。第二日目の朝6時30分に京都駅に到着し、自動車で三條小橋旅館大津屋に到着。入浴朝食の後に比叡山、琵琶湖を見学。第三日目は、8時15分に京都駅を出発し、正午に天ノ橋立に到着し遊覧の後、城之崎温泉の旅館竹ノ井に投宿。第四日目は、朝7時15分に城之崎を出発し、午後6時13分に広島駅に到着した。到着後懇親宴会の会場である羽田別荘に移動。懇親会、表彰式、宴会・余興、土産物贈呈、大福引があり、翌16日の朝食後任意解散となった。旅行の様子を伝えるため、琵琶湖島巡りの写真を掲載する。乗船したのは優秀船京阪丸ということである。

招待された代理店は、いずれも優秀な成績をおさめた代理店と思われるが、全体で40代理店、46名が参加した。県別では、広島が14代理店(17名)、山口県10代理店(11名)、岡山県10代理店(10名)、香川県3代理店(3名)、島根県3代理店(4名)であった。代理店数と参加人数の食い違いは、夫婦の参加があったためである。


会社側は、優秀代理店を「代理店会」として招待し、その記念として写真集を作成し、参加者に配布した。編集後記で、担当者が、写真集の出来上がりまでに1年近くかかってしまったことを詫びているが、支部担当の社員も多忙の中を編集作業等でたいへんなことだったろう。戦前の保険会社の社員が、募集代理店のために様々な活動をしていたことがわかる。



保 險 樂 内



手ヨウヘイホケンノススメ
ボツチャンガタガ、スコシツツノ、
オコツカイヲ、ムダニツカワナイデ、
コノホケンヲ、ツケテオケバ、
ヘイタイニ、ユカレタトキ、
クワイシヤカラ、タクサンノ、
オカネガ、ワタルノデス。
ホケンニ、ハイツタカタニハ
キレイナル、キシヨウラアゲマス



日 本 兵 生 存 保 險 株 會 社



水郷二 (上) 琵琶湖島廻り優秀船京阪丸ニテ出発セントスルー行
(下) 全船中萬歳ノ餘興ニ腹ヲ抱ヘツ、アルー行

